

### 1.1.3 経年変化

本調査の実施期間における漂着ゴミ量が例年に比べて多かったのか、あるいは少なかったのかという傾向を把握するため、他のデータから日本における漂着ゴミ量の経年変化について考察した。全国的な漂着ゴミの経年変化が整理された資料がないため、ここでは、山形県・福井県での漂着ゴミの回収量の経年変化及び沖縄県における漂着ゴミの観測例を示す。

3県におけるデータのうち、平成20年のデータまで入手できた山形県、福井県における漂着ゴミの回収量の経年変化より、本調査の実施期間に両県に漂着したゴミ量は近年では少ない傾向にあったことが推察された。

#### <山形県の例>

山形県の庄内海岸（庄内浜）に漂着したゴミ量の経年変化について、山形県酒田市で実施されている「庄内浜クリーンアップ作戦」において回収されたゴミの量から推察した。

「庄内浜クリーンアップ作戦」の参加人数（人）を表1.1-1に、回収されたゴミの量（kg）を表1.1-2に、その際の一人当たりの回収量（kg/人）を表1.1-3および図1.1-16に示す。平成20年の実施日は、浜中海水浴場（7月3日）、十里塚海水浴場（6月27日）、宮海海水浴場（7月11日）、宮野浦海水浴場（6月28日）であった。

「庄内浜クリーンアップ作戦」が実施されている4地区の合計においては、平成17年がゴミの量も多く一人当たりの回収量も多いが、平成20年はゴミの量も少なく、一人当たりの回収量も平成16～20年の間で最も少ない。この傾向は、浜中海水浴場（地点5付近）でも同じであったが、十里塚海水浴場（地点1付近）では、平成18年の一人あたりの回収量が最も少なく、違う傾向を示した。

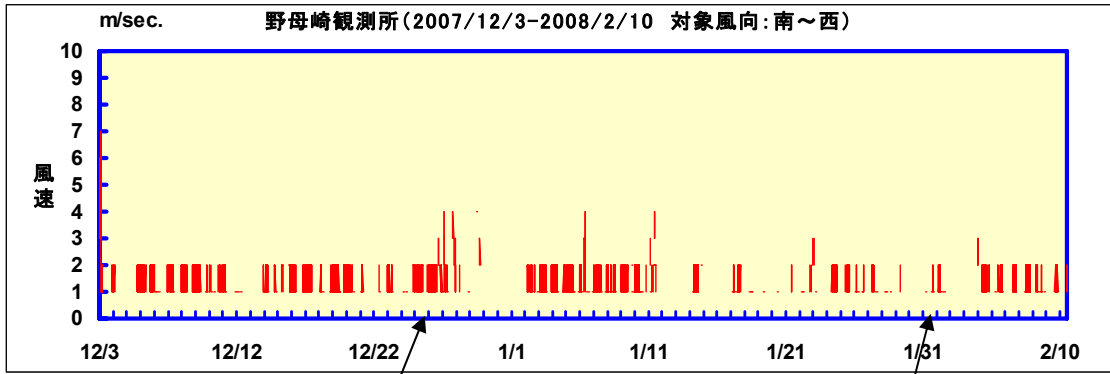
以上の結果より、山形県の庄内海岸（庄内浜）における漂着ゴミ量は、ここ5年で最も少ないことが推測された。しかし、赤川河口部の北側の十里塚（地点1付近）においては、通年と同程度のゴミが漂着したものと考えられる。

なお、当クリーンアップ活動は、活動範囲・頻度・参加人数・構成、回収対象アイテムなど一定・共通した条件が少ないため、回収されたゴミの量からは、正確に経年変化の把握が困難であることに注意が必要である。

表 1.1-1 「庄内浜クリーンアップ作戦」参加人数（単位：人）

	H16	H17	H18	H19	H20
浜中	210人	169人	184人	207人	200人
十里塚	383人	10人	365人	中止	236人
宮海	245人	226人	202人	227人	200人
宮野浦	492人	51人	中止	260人	600人
合計	1,330人	456人	751人	694人	1,236人

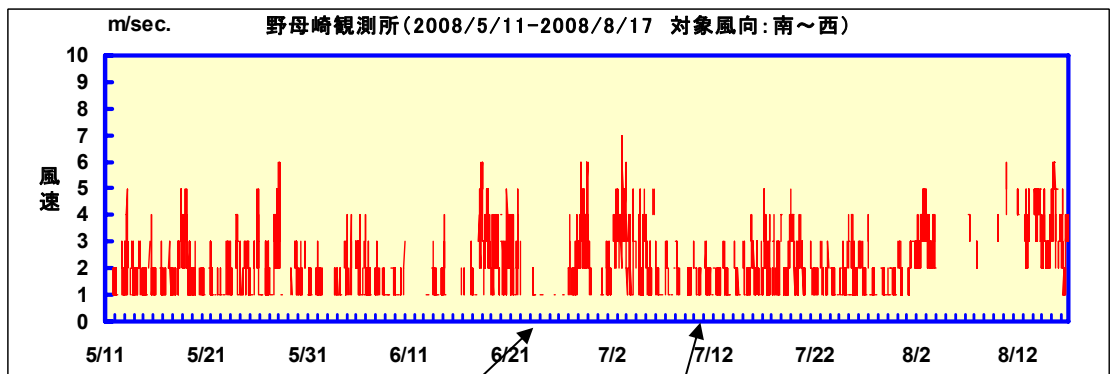
注：黄色の部分が調査範囲の近傍に該当する。



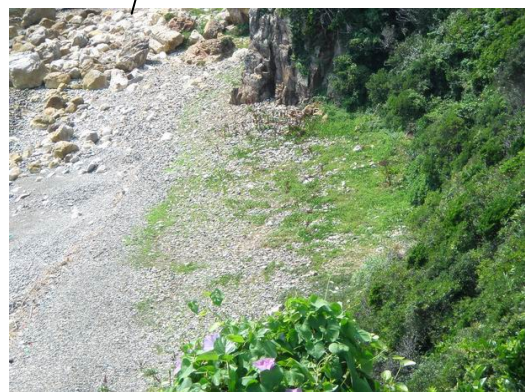
2007年12月27日撮影(12月7日清掃)



2008年2月1日撮影(2007年12月7日清掃)



2008年6月26日撮影(4月15日清掃)



2008年7月11日撮影(4月15日清掃)

図 1.1-15(8) 南~西の風速の時系列と定点観測画像の比較(熊本県苓北町地域:富岡海岸)



台風 23 号が通過した 11 月 27 日前後の吉原海岸の状況

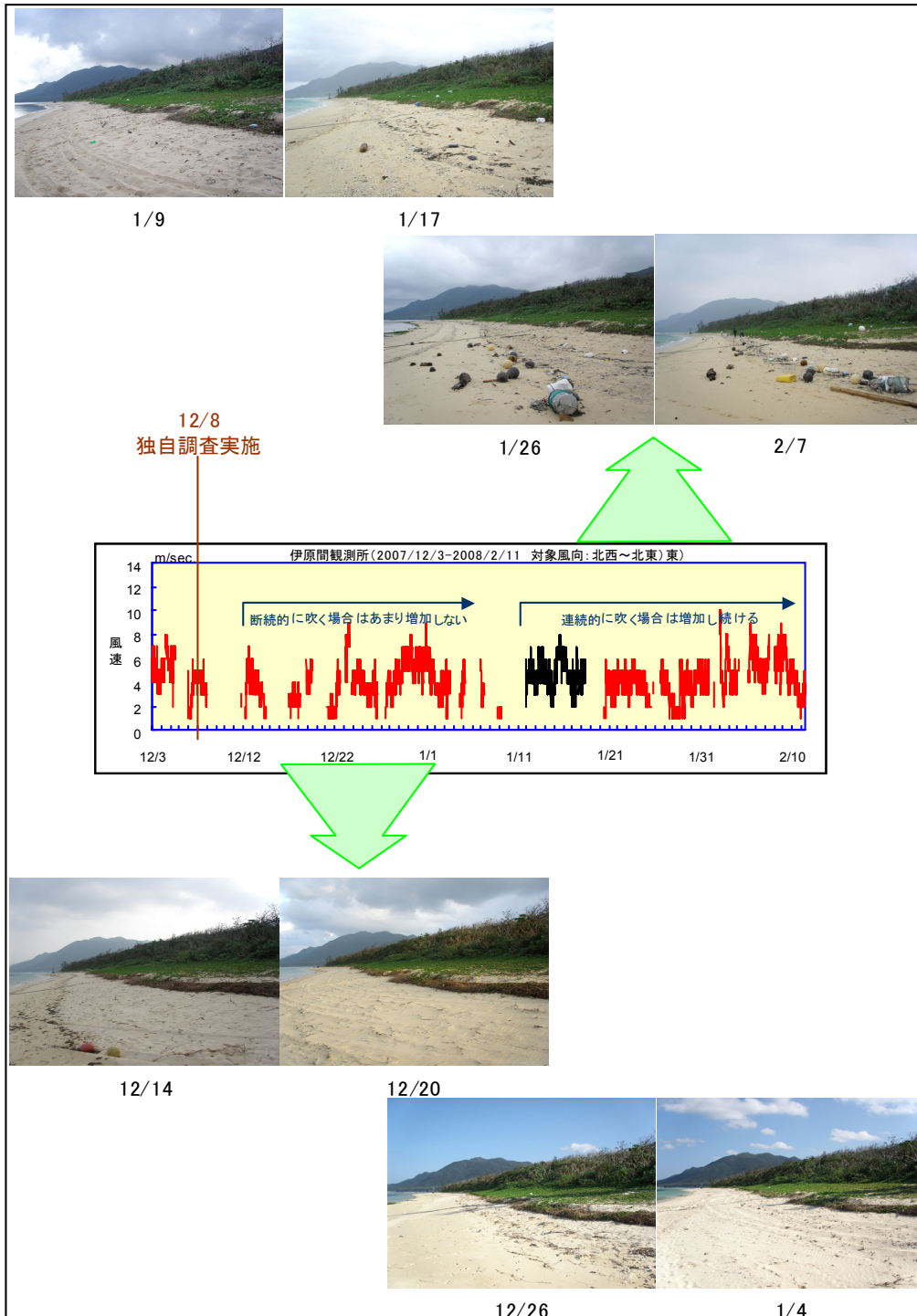


図 1.1-15 (9) 北西～北東の風速の時系列と定点観測画像の比較（沖縄県石垣市石垣島地域）



台風 23 号が通過した 11 月 27 日前後の中野海岸の状況

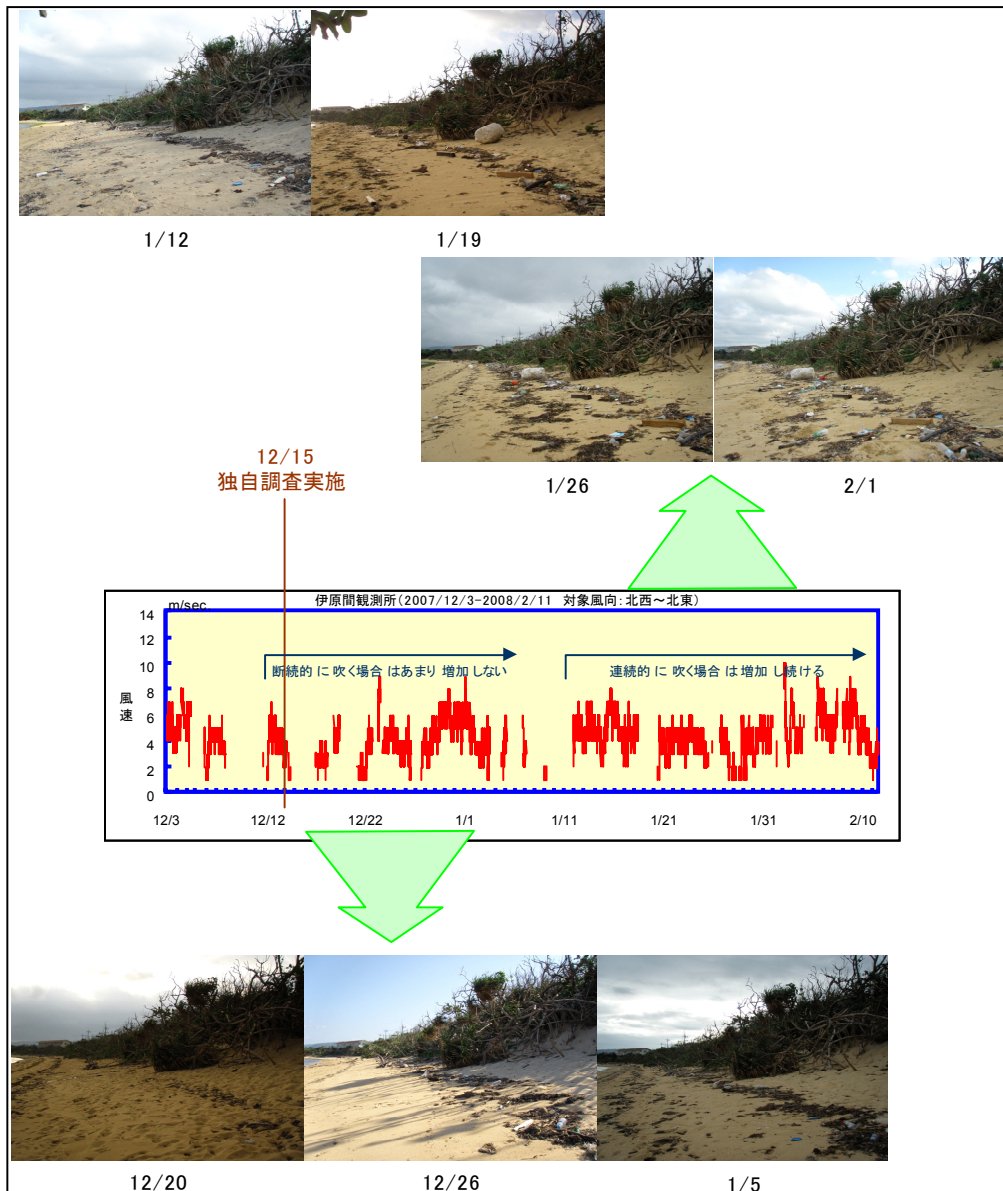


図 1.1-15(10) 北西～北東の風速の時系列と定点観測画像の比較（沖縄県竹富町西表島地域）

### 1.1.3 経年変化

本調査の実施期間における漂着ゴミ量が例年に比べて多かったのか、あるいは少なかったのかという傾向を把握するため、他のデータから日本における漂着ゴミ量の経年変化について考察した。全国的な漂着ゴミの経年変化が整理された資料がないため、ここでは、山形県・福井県での漂着ゴミの回収量の経年変化及び沖縄県における漂着ゴミの観測例を示す。

3県におけるデータのうち、平成20年のデータまで入手できた山形県、福井県における漂着ゴミの回収量の経年変化より、本調査の実施期間に両県に漂着したゴミ量は近年では少ない傾向にあったことが推察された。

#### <山形県の例>

山形県の庄内海岸（庄内浜）に漂着したゴミ量の経年変化について、山形県酒田市で実施されている「庄内浜クリーンアップ作戦」において回収されたゴミの量から推察した。

「庄内浜クリーンアップ作戦」の参加人数（人）を表1.1-1に、回収されたゴミの量（kg）を表1.1-2に、その際の一人当たりの回収量（kg/人）を表1.1-3および図1.1-16に示す。平成20年の実施日は、浜中海水浴場（7月3日）、十里塚海水浴場（6月27日）、宮海海水浴場（7月11日）、宮野浦海水浴場（6月28日）であった。

「庄内浜クリーンアップ作戦」が実施されている4地区の合計においては、平成17年がゴミの量も多く一人当たりの回収量も多いが、平成20年はゴミの量も少なく、一人当たりの回収量も平成16～20年の間で最も少ない。この傾向は、浜中海水浴場（地点5付近）でも同じであったが、十里塚海水浴場（地点1付近）では、平成18年の一人あたりの回収量が最も少なく、違う傾向を示した。

以上の結果より、山形県の庄内海岸（庄内浜）における漂着ゴミ量は、ここ5年で最も少ないことが推測された。しかし、赤川河口部の北側の十里塚（地点1付近）においては、通年と同程度のゴミが漂着したものと考えられる。

なお、当クリーンアップ活動は、活動範囲・頻度・参加人数・構成、回収対象アイテムなど一定・共通した条件が少ないため、回収されたゴミの量からは、正確に経年変化の把握が困難であることに注意が必要である。

表 1.1-1 「庄内浜クリーンアップ作戦」参加人数（単位：人）

	H16	H17	H18	H19	H20
浜中	210人	169人	184人	207人	200人
十里塚	383人	10人	365人	中止	236人
宮海	245人	226人	202人	227人	200人
宮野浦	492人	51人	中止	260人	600人
合計	1,330人	456人	751人	694人	1,236人

注：黄色の部分が調査範囲の近傍に該当する。